
変わった転生者、なんかな？

金髪の雑魚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変わった転生者、なんかな？

【Nコード】

N3747Z

【作者名】

金髪の雑魚

【あらすじ】

なんか転生できるっぽいから、便利そうな能力の『才能』を貰ってのんびりと生きていこうか？※感想を書かれる際、返信されないことを前提で書かれてください。また、作者はこれが処女作なのでいろいろおかしい所も出てくるかもしれませんがご容赦ください。

その1（前書き）

なるべくテンプレ化しないように書くのが目標。

その1

……目が覚めたら、真っ白な空間に居た。

「これはお約束のテンプレかな？あまり期待はしないけど」

だってテンプレ過ぎてマンネリ化してるからね、こういう展開。どうせこの後神様のなキャラが出てきてちよろっと会話して適当に転生って流れでしょ？はいはい即戻るボタン押しましようねー。

「そお？ならテンプレじゃない？」

「いや、欲しい」

うん、貰えるもんは貰ったかないともったいないし。

「んで、見た目がフツで地味で個性の欠片も無さげな君は、どんな事を神様をお願いするのかい？もちろんテンプレ的な選択もよし、奇をてらってもよし、さあ、どうする？」

何だ最初の余計すぎてお決まりの台詞みたくなってる一言は……そんなに容姿の変更を強いられても困るし、第一印象はこの地味なのが気に入ってるんだ、あんまし注目されたりしないし。

「限度ってあるの？中二病全開の二次創作のテンプレだと、これでもかってばかりにチートを要求する描写あるじゃん？」

「流石にチートは人生イージーモードでつまらないと思うよ？いやホント。実際自分がそうだからさ、ほんっと、マジで、真剣に」

だろうな、チートは妄想に留めておかないと絶対つまらんし、なによりチートって単語が好かん。万能すぎるのはつまらん。ちよつとくらい便利なのが一番面白そうで実用的でしょ？例えば――

「『他人を幸運にする程度の能力』の『才能』とかどうよ？」

取り敢えずは某シューティングゲームの妖怪兎の能力を言ってみる。このゲームな理由は単純に分かりやすくて一番覚えてるってだけだけど。それに自分の為の能力じゃなくて、他人の為の能力ってのがミソだよな、こーゆーの。後すぐ使える訳じゃなくて、ある程度努力(苦労)しないとイケないように『才能』にしたの。

「おお、いいチョイスじゃん？この調子で後2個どうよ？」

「なら……『千里先まで見通す程度の能力』と『探し物を探し当てる程度の能力』の『才能』でどう？」

ぶっちゃけ最新作は覚えてないし、キャラが結構好きだったから確実に覚えてるこれがいい。小学校時代のあだ名がメガネだったのと、高校時代お年玉の入った財布を落としたのを忘れないためにも。

「いいねいいね、そのテンプレやチートの否定。攻撃系統じゃないのと『才能』なのがポイントだよな。んじゃま、そろそろどっかの世界に行ってみよー」

「あれ、どんな世界かは教えてくれない感じ？どうでもいいけど」

「そーゆーと思ってたし、程よくノーマルモードぐらいで行こう。取り敢えず戦闘はあるかもしれないね」

「それだけ判れば十分、んじゃよろしくー」

「軽いねー、いってらー」

そして急に意識が遠のいていった。

「おまけで黒歴史はカットしたげるからー」

さんくす、と心の中で言っておいた。

その2（前書き）

短いのは仕方ない。

その2

自分が転生したことにはっきりと自覚を持ったのは、たしか幼稚園の年長になったぐらいだったわけ？ ゆっくりと前世（笑）の記憶と、神様のなキャラとの会話を思い出してった。そしたらまあ、使ってみたくなるわけだ、能力を。結果としては

『幸運にしたいと思った子が、じゃんけんに勝って劇の主役になれた』

『意識したら、ちょっとだけ遠くが見えた』

『園内に隠してもらったおもちゃの、隠してある部屋が分かった』

となった。初めて行使した割には結構な手応えやった、意外やな。もうちょい難易度高いかと思ったけど……ああ、成長のスピードとか習得率的なヤツがノーマルモードとかか。それならいいんやけど……こんなちっさい頃からあんま目立ちたくもないし、小3くらいからでいい。

それと、どんな世界に転生したかが分かった。住んでる街の名前が『海鳴市』やった。アレよアレ、リリなの、白い悪魔とかが有名な

「やからか」

この幼稚園に妙に容姿が整ってたり、歳の割りに妙に大人びてたり、特徴的なアクセサリーしてたりするのがちらほらいるのは。めんどくさいったらありゃしない、いやホント。

「ねえねえ、いっしょにあそぼー」

「ん？ いーよー」

でも取り敢えず今はおともだちと一緒に遊ぶことにしよう、余計なこと考えんで済むし。よーし、頑張ってトンネル掘るぞー。

その3 (前書き)

口調が安定しないのはわざと。

その3

人生二度目……でいいのか分らんけど、小学校に入学した。私立聖祥大附属小学校って言うんやけど、こっつてアレだよな？主人公とかその他キャラが通ってる小学校。めんどくさー……フツの公立とかの方がお金的にもいいと思ったんやけど、親がこの卒業生らしい。なら仕方ないわなー。

「――それじゃあ、自己紹介をしてもらいます」

ぼーっとしとったら、いつの間にか自己紹介の時間になったっぽい。自分の前のヤツらが小学生らしい自己紹介をしていく中、見た目が転生者なのが確定的に明らかかな男子生徒の番になった。何でかって？そりゃ銀髪に金と紅のオッドアイだよ？中二病に間違いないって。

「俺の名前は神威クリス！好きなことはスポーツだ、よろしく！！」

よく通る声で教室を見渡しながらそう言った。名前ですらに確信した、絶ッッ対に中二病末期の転生者やん。しかも座る直前に見覚えのある女子生徒に笑顔で熱のこもった視線を送った。案の定主人公とツンデレとおっとりやった。関わり合いになりたくねー。

「……稲葉くーん、君の番だよー？」

「あ、はーい！」

あれ、もう俺の番か。考え込む癖直さんといかん……

「さーとーいなばです！好きなことはたからさがしです！よろしくお

ねがいします！」

精神面でまだ子供な部分を全開にして自己紹介。てかアレやね、無駄に精神年齢高いから恥ずかしい。勢いだけで乗り越えたって感じやったし。……そうそう、俺の今の名前は佐藤稲葉。稲葉とか絶対能力つながりだろ、慣れるまで地味に恥ずかしかったんやけど。でも流石に太郎とか一郎は目立つよね、普通的な意味で。やから普通の苗字に少しでも特徴のある名前の、ある意味一番無難な名前であった、いやホント。

「高町なのはです！好きなことは友達とお話することです！よろしく願います！！」

俺の隣の席やけど、主人公元氣やなー。てかやっぱ何か雰囲気違うわ、他の女子生徒と比べて。ツンデレとおっとりも雰囲気違うけど。それと俺以外の転生者も別の意味で。

「平穏に過ごしたいんやけんど……」

地の口調でばやいて、帰りの号令までずーっとぼーっとしてた。まあなんとかなる、とか思ってたら絶対なんかあるんやろーけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3747z/>

変わった転生者、なんかな？

2011年12月13日01時00分発行